お仕事探訪 vol.24

ヒット商品や成功事例の
真相を求めて津々浦々。
他社や達人の仕事術から学び、
我らが進むべき道を探ります。

鈴渓資料室

皆さんは、愛知県常滑市の南部に位置する小鈴谷という地区をご存じでしょうか?
実はここ、当社の創業者である盛田善平翁の出身地。その地に善平翁の原点を支えた教えが今に伝わる場所があると知り、Pascoの源流を求めて訪ねました。

常滑市立小鈴谷小学校 校長
鈴渓資料室長
磯村 充利さん

小学校内に併設された、郷土の偉人を生み出した鈴渓義塾を紹介する「鈴渓資料室」

愛知県常滑市といえば、常滑焼に代表されるやきものの里として広く知られているが、その地が生み出しているのはやきものだけではない。昔から数多くの著名人も輩出してきた。例えば、地域のため数多くの偉業を成し遂げた盛田酒蔵11代当主・盛田命祺氏をはじめ、トヨタ自動車中興の祖といわれる石田退三氏、言語学者の石黒魯平氏、名古屋大学の前身である名古屋帝国大学の設置に尽力した伊東延吉氏、戦艦大和の第4代艦長を務めた森下信衛氏などなど。そして、その錚々たる顔ぶれの中に当社の創業者・盛田善平翁も名を連ねているのだが、彼らに共通するのが「鈴渓」という言葉である。「鈴渓」とは、常滑市南部の小鈴谷地区の別名。明治時代、この地には「鈴渓義塾」という、当時としてはかなり最先端な教育で知られた私立の高等小学校(現在の小五〜中二)があったという。

先に述べた偉人たちはすべてこの「鈴渓義塾」の創設者や卒業生など、縁の深い人々である。その教育の流れを現在に受け継ぐのが常滑市立小鈴谷小学校だ。この学校では「鈴渓義塾」を中心に紹介する「鈴渓資料室」を校舎内に設け、空き教室一室を使って、関連資料や収蔵品などを展示・保管している。1万点を超える収蔵品の中には、教科書として実際に授業で使われていた明治〜大正時代の貴重な書物もごろごろ。また、パネルを使って「鈴渓義塾」の歴史や、関連人物の紹介などもされていて大変分かりやすい展示となっている。さらに、小学校内に設けられているとあって、児童たちの手書きによる郷土の偉人たちを研究学習した展示物も壁に張り出されていたりしてほほえましい。

鈴渓資料室全景
盛田家本家15代当主・盛田昭夫氏(元ソニー会長)夫人である良子氏と、石田退三記念財団の支援を受け、平成27年10月にリニューアル。シンプルだが、見やすくわかりやすい展示となっている。

鈴渓義塾で実際に使われていた教科書→

鈴渓読本
盛田善平翁の功績を紹介したページも。小鈴谷小学校では、先輩に続く意思、意欲、学習での自信、郷土を愛する気持ちが育つことを願い読本を活用している。

「本校では、先輩に続く意志、意欲、学習での自信、郷土を愛する気持ちが育つことを願って、鈴渓の歴史と郷土の偉人たちについて学ぶ機会を設けています。その際に活用しているのが『鈴渓読本』。これは、この地区や鈴渓義塾が輩出した人々の足跡を記録に残し、次の世代を築く子どもたちにしっかり伝えておきたい、との地域の声を受け、昭和55年に発行されました。また、本校に代々受け継がれてきた資料や、全国の鈴渓義塾に関わる方、地域の方から寄贈されたものを広く一般公開しようと昭和63年に設置したのが『鈴渓資料室』のはじまりです」と小鈴谷小学校校長兼資料室長の磯村充利さん。そして「昨年10月には、より見やすく、わかりやすい展示と資料の保存を考慮した改修整備を終え、リニューアルオープンを遂げた。

向学心ある地域の子どもたちに、新しい時代の高度な教育を

「鈴渓義塾」は、明治21年、地元の有力者であった盛田家11代当主・盛田命祺氏と、その命祺が伊勢から教育者にと招いた溝口幹氏によって創設された。溝口幹という人物は、小鈴谷での教育に生涯を捧げた人で、今も尚、地元の方々からの尊敬を集めている。「明治維新まもない明治5年に、日本で初めて学校教育制度を定めた『学制』が発令されるのですが、それに先立ち、小鈴谷では地元の方々からの寄付金によって『小鈴谷郷学校』が設立されていたようです。地元の発展のためには、子どもたちに新しい教育を受けさせ、優秀な人材を育てることが大切だと考えていた命祺さんにみそめられ、溝口先生は郷学校の教員として明治5年に小鈴谷に教員として赴任してきました」と磯村さん。その後、溝口幹氏は教員養成学校や各地の師範学校で学ぶなどし、教育者としての研鑽を積んでいったという。一方で明治の激動の中、教育制度も変化し、郷学校は「鈴渓学校」、「小鈴谷学校」と名を変えていく。「明治19年になると『小学校令』が発令され、明治20年から尋常小学校4年(現在小一〜小四)と高等小学校4年の編成になったのですが、この辺りには義務教育を受けられる尋常小学校(小鈴谷学校)はあったものの、その上の高等小学校は半田にしか設置されなかったんです。当時、小鈴谷から半田まで通うのは大変で、向学心はあっても進学をあきらめてしまう子どもたちも多かったのでしょう。命祺さんと溝口先生はそれを憂い、地元の子どもたちにもっと高度な教育を受けさせたいと、この地に私立の『鈴渓義塾』を設立したのです」。

Pascoにも受け継がれる!? 鈴渓義塾の精神

「鈴渓資料室」の入口には、「志」「学ぶ」「情熱」の三語が掲げられているのだが、これは塾長に就任した溝口幹氏が立てた教育方針だそうだ。「溝口先生は、教育の最終目標は、子どもたちの性格に適した学問を身につけさせ、将来、

次のページへ続く

世の中で何ができるかを教えることだと考えていたようです。世の中に出て自分が何をすべきか、その『志』を持つことが大切で、『志』を持たせるためには『学ぶ』こと。そして『志』を継続させるための『情熱』が必要だと命祺さんに語ったと言われています。それは、上に立つ者だけでなく、働く人も志を持ち、それぞれの分野で役立ってほしい、という願いが込められていた」と磯村さんは言う。溝口幹氏はこの教えを自ら実践していたようで、知多の教育に志を立てた以上、自分自身が学び続けることが必要だ、と、常に新しいことを学び続け、その知識を生徒たちに教えていたそうだ。磯村さんによると、当時としてはかなり高度な内容を教授していたようで、「鈴渓義塾」を卒業し、後にトヨタ自動車の発展に寄与した石田退三氏の回顧録には「中学で習う授業は、鈴渓のおさらいのように思えた」というエピソードが伝えられているそうだ。

その後、鈴渓義塾は私立から公立となり、その名も鈴渓高等小学校、小鈴谷第二尋常高等小学校と変わるが、鈴渓義塾が創設された明治21年～40年までの19年間を総称して「鈴渓義塾」と呼ぶ。その時代の卒業生からは多くの著名人が生まれているのも納得だ。「溝口先生の教えの背景には、自分に期待し勉強させてくれた命祺さんが敬ったという江戸時代の知多の学者・細井平洲（へいしゅう）の教えが引き継がれています。特に平洲が大切にしていたのは、『恕（じょ）』と『忍びざるの心』。これは困っている人がいたら助けようという思いやりを意味しますが、鈴渓義塾が輩出した偉人たちの語録や業績には、こうした精神が溢れているように思います。また、その精神はその子孫や後輩たち、地域の人々にも受け継がれ、現在も日本を代表する企業や経団連、医学会、教育界と関わりの深い人々と繋がっています」と磯村さん。「今後も鈴渓の精神を語り継ぎ、児童はもちろん、地域の人々やこの資料室を訪れた方々に、自分が世の中の役に立つんだ！という気概に満ちた志を持っていただけるきっかけになれば」と話す。さらに磯村さんはこう語ってくれた「正確には鈴渓義塾の卒業生ではありませんが、郷学校時代に溝口先生の下で学んだ盛田善平さんも、製粉事業やパン事業を通じて、食糧難にあえいでいた国民のために日本の食生活を豊かにしようと志を立てたわけですよね。そこに平洲の教えが生きている。つまり、命祺さんや溝口先生の教えを実践した第一人者が善平さんなのではないかと私は考えています。善平さんは晩年、溝口先生を何度も訪ね話をしていたようです。溝口先生の教えは、善平さんの心の拠り所となっていたのではないでしょうか？」。鈴渓の源流が盛田善平翁の中に流れていたと。ということは、その善平翁を祖とするPascoの中にもその教えは受け継がれているはずである。社員それぞれ立場は違えど、自分のいる場所で何が自分にできるか、どう役に立てるか志を立て、それを学び、情熱を持ち続けることが必要かもしれない。皆さんも我が社の源流を求め、鈴渓資料室を訪れてみてはいかがでしょうか。

盛田善平新聞
児童たちが取材、研究、制作。先人の生き様などを学ぶことで、小鈴谷の子どもたちは郷土への誇りと未来への希望を育んでいく。

取材を終えて

「金儲けは結果であり、目的ではない。食糧難の解決が開業の第一の意義であり、事業は社会に貢献するところがあればこそ発展する。」という盛田善平翁による当社の創業理念は、溝口幹氏の『志』『学ぶ』『情熱』の教えが受け継がれたものと思います。現代でも、自分が世の中の役に立つんだという志を持ち、学び、情熱を持って継続していくことの大切さを学ぶことができました。多くの著名人を輩出した「鈴渓義塾」の偉大さ、教育の大切さを実感しました。　（広報室 加藤（祐））

溝口先生頌徳（しょうとく）記念碑
校門脇に立つ、溝口幹のレリーフ碑。鈴渓の郷の師の功績を讃え、その姿を永遠に残したいという教え子の願いにより、溝口幹の死後、昭和11年に建造された。

ご案内
見学を希望される場合は事前に小鈴谷小学校へ連絡を。
常滑市立小鈴谷小学校 常滑市大谷井戸尻2-2
Tel 0569-37-0021／Fax 0569-37-0492